

次期計画検討部会（第3回）概要

日時：令和4年8月25日（木）14:00～16:00

場所：議会増築棟3階 第2特別会議室

1 開会

2 挨拶

3 議事

（合津産業政策課長から配布資料について説明）

（杉原専門委員）

企業・県の役割があるが、「学」の役割が記載されていない。高等教育機関の持つ「知」や研究機器の活用が必要。人材育成でも「学」のコンテンツは有用である。リカレント教育においても、大学や高専の持つコンテンツを使うべき。全体を通して学の役割が薄いように感じるので、明記をお願いしたい。

（杉原専門委員）

p. 16に記載のプロジェクトについて、DXは手段だが、目的のように書かれていることに違和感がある。例えばゼロカーボン達成、エネルギーの地産地消、循環型社会形成に向けてDXやGXがどう寄与するのか、県全体の大きな方向性から、DXやGXの活用に向けて県内産業がどう寄与するのかという視点で記載してはいかかがか。

（林産業労働部長）

産学官のご指摘は、確かにその通りだと感じている。もう少しわかるように記載したい。

（糸井委員）

DXという言葉について、Dの部分は強化されるが、Xは経営者が困る部分であり、県全体としてどのように取り組むのか、岐阜県ではアドバイザーがチームを組んで支援していたり、バリューチェーン全体での取り組みを支援している。そういった取り組みを進めないとDXのゴールが見えない。

また、特に自動車業界では、3Dを活用したモデルベース開発が進んでいるが、県内企業がキャッチアップできるよう情報収集し、学べるような仕組みが必要ではないか。

KPIについては、向山会長から、利用者からの立場による評価も必要といわれていたように思う。満足度もあるが、もう少し利用者の評価があっても良いのではないか。

（青柳専門委員）

バランスの取れた内容に仕上がっていると感じている。独自に取り組む部分と、共創により取り組む部分があるが、共創に至る前の部分、出会いを支援する仕組みが記載されるとより良いと思う。

(木下専門委員)

LXを取り入れたのは良いと思う。DX、GXとLXの関係も示されるとさらに良いと思う。

また、良い商品ができて、出口戦略で付加価値につなげる施策が謳われていない。展示会に出すだけでKPIというのはインパクトがない。銀座NAGANOも良いが、もう少しBtoCとか、一歩先を行く先進的ビジネス戦略を後押しする戦略をお願いしたい。

(小松専門委員)

品質の信頼性の記載があるが、海外で話をすると、日本の企業に対する品質は当たり前となっていて、それよりも新しい価値の提供が求められる。

また、稼ぐ力というとお金に換算して考えざるを得ない。自分たちの企業にいくら投資して外部からいくら資金をとってきたのか金額換算をすることが重要。KPIも企業の投資や競争的資金の金額等を見ることで各項目統一的に規模が見える。稼ぎ方にもモノを売って稼ぐ、資金調達で稼ぐ、ライセンスで稼ぐこともできる。そういうものを金額で出すことで見える化につなげられる。そのベースにDXやGXがある。DXは方法なので、どれだけDX化が進んだかというKPIができればいい。GXは見えるようにすることで会社の信頼性につながる。最後にLXで、従業員の離職率減、幸せ度等がこれだけよくなりましたと示せるので、LXという言葉は良いと感じている。

(濱田部会長)

LXは経団連がこれからどう取り組むかによると思う。通常、こういうのを発表すると、これに付随する記事があったりするがまだ一つもヒットしない。経団連タイムズでは、LXの内容について、循環が一つキーワードになっている。ヨーロッパでは、今後衣服を捨てることができなくなり、すべてリサイクルやリユースになるとの話もある。LXが政府の予算書などで使われれば広まる。策定中のプランだが決意して取り込んで使っていくのも良いと思う。

人材について、大卒で就職した企業は把握しているが、その後転職する場合も多く、トータルでどう人材を捕まえてくかが重要。小中高で地元どんな企業があるか知っていることは重要。信大の卒業生で、県外へ就職したが県内へ転職して戻ってくるときに、企業を選んだきっかけが、在学中に知っていたからという話を聞いた。

(林産業労働部長)

DX、GX、LXはプロジェクトとして記載したため、目的化してしまっている。記載をもう少し検討したい。前回のプロジェクトは航空宇宙や医療など分野を記載したが、今回はそういう記載から変えたことからかえって技術なのか目的なのか分かりにくくなったようにも感じている。どのように記載したらわかりやすくなるのか。

(濱田部会長)

DX、GX、LXは重なっている部分もあり、どう記載するか難しい。産業別の記載は分かりやすいが、そこに縛られすぎてしまう。DXなどは今後関わらない産業はないかもしれないと感じている。

(杉原専門委員)

大学は地方創生への貢献を問われているが、その一番大きな課題は人口減少である。人口減少の原因は様々だが、これを解決するような視点等、例えばこれから長野県で若者がどう仕事をしていくかという視点でくくるとか、地域の循環社会の構築でくくるとか、大きなビジョンの中で課題となるテーマでくくるのは一つの案ではないか。

(濱田部会長)

プロジェクトに記載のある①②…の個々の項目を羅列するだけでも良いと思う。

(青柳専門委員)

プロジェクトという表現は気に入っている。具体的な行動に結びつけられるようなメッセージを発するのはとても大切。

(小松専門委員)

製造業でDX活用を考えると、IoTを使ってデータを集めて、学習して楽にすることが目的であるが、膨大なデータ収集が面倒で、結果としてうまくいかないことも。そこで、今の工程から取り止めたプロセスを考え、もっとも大変な外観の全数検査をやめることを目的にしたとき、みんなが協力してくれるようになった。DX化は、いかに人にやさしく、労働から解放する視点で進めると良い。他では、報告書を作る作業について、DXで効率化したいとの要望はある。身近なところで、今苦労していることについてDXを導入するのは効くと思う。

(合津産業政策課長)

プロジェクトではDXに資する産業の創出を目的としているが、DX化については重点施策でしっかり記載していきたい。

(濱田部会長)

私もDX研究会で関わっているが、DXは人によってとらえ方が違う。とらえどころが難しいが認知度が高い言葉なので今後も重要でもある。NICE（長野県産業振興機構）でも伴走型の支援を進めているが、社内に担当が一人いれば進むものではなく、小松委員の話にあったように、関わる全員の理解が得られないと進まない。伴走型の支援人材が効果的で、各企業はNICE（長野県産業振興機構）や副業人材の活用などそれぞれのやり方で進めているのではないか。

(林産業労働部長)

p. 16、17の事例は、こういったプロジェクトを生み出していくイメージである。いただいた意見をもとに記載は変えていきたいが、こういった内容で進めさせていただきたい。

→ 了

(林産業労働部長)

また、青柳専門委員から発言があったが、エコシステム、皆さんが集う仕組みを構築する記載を入れていきたい。

(合津産業政策課長)

杉原委員からご意見いただいた、学の役割について、取組のところにはしっかり記載させていただきたいが、「役割」のところはどう記載するかについては相談させていただきたい。

また、目的と手段についてのご意見をいただいたが、GXについては、ゼロカーボン戦略で定めた目標があり、それと関連付けられるような記載にしていきたい。

(林産業労働部長)

資料の2枚目が目次になるが、不足が無いかがご意見をいただきたい。

(濱田部会長)

メタバースという言葉が出てきたが、「メタバース県庁」みたいなことは考えているのか。

(室賀産業立地・IT 振興課長)

県内に取組む企業があり、具体的な中身はともかく検討はしている。

(林産業労働部長)

スタートアップを掲げた。コロナ後を考えると新しい産業を生み出す試みは必須である。大学との連携や社内ベンチャーの支援、移住者の創業など今やっていること+ α をやらないと進まないと考えている。強化すべき視点があればお聞きしたい。

(小松専門委員)

SPC (Special Purpose Company 特定目的会社) を強化することも一つの方法。売上1千万円以下にすれば消費税が必要なく、外部投資を SPC に入れることで、既存企業の経営権を確保したまま新しい事業を立ち上げることができるが、手法があまり浸透していない。自分のところでは、今年2社の SPC を立ち上げようとしており、出口はバイアウトをにらんでいる。県内企業は基礎的な技術にこだわりすぎて上手くいかない部分もあり、そこをスピナウトして外部の資金を入れてやっていく手法もある。いくつか手段示してあげることで意識が変わる。また、資金や税制優遇、きっかけや場を設ける等の支援があってもいい。東京から移住した人が役員に入ってくれるケースもある。

(濱田部会長)

県内でも事例があるのか。

(小松専門委員)

県内でも最近増えている。東京ではかなり盛んになっており、CO₂ 排出権取引の会社など取組が多

いようだ。うまくいかななくても損切ができる。また、外部投資を受けるときにデューデリジェンスをしやすいのでバイアウトにつなげやすい。アメリカではこの理由から、部品加工会社が、個別の部品製造会社を次々に立ち上げてバイアウトしていたりする。

(林産業労働部長)

戦後長野県産業は核となる技術を活かしつつ、分社を繰り返し発展してきた。県内のコア技術を磨いてそこから創業を生み出すやり方も重要。

世界に伍する、グローバルという視点で、尖った取組についてご提案をいただきたい。

(杉原専門委員)

高校まででは既にプログラミング教育が始まっており、あと2年するとそういう人材が社会に出始める。プログラミングができて専門知識を学んだ人材が増えるとDXは劇的に変わると思う。例えば高卒でちゃんとプログラムできる子が会社を立ち上げると18歳ぐらいで年収1億円とかもありうる。そういう人材を見つけて県内に囲い込んで、県内企業と連携できるようなことができれば面白い。高校とかと連携してそういう人材をピックアップできればと思う。

大学はプログラミングと各専門知識を合わせるような教育を行う役割になるか。

(林産業労働部長)

産労部の予算は2千億円程度で、うち1900億は融資で、残る100億のうち25億はコロナ対応であり、県の予算には限りがある。そういうことを踏まえて注力すべき分野などあれば伺いたい。

(青柳専門委員)

色々な意味で変人、奇人を探していく必要があると思う。「世界と伍する」の実現には、既存の事業の延長線上では達成しない、論理的に正しいことだけを教育して学校の勉強ができてもだめだと思う。例えばデータサイエンスの分野と天才が結びついて初めて「世界に伍する」企業が創生できる。既存の考え方からは少し外れたようなところへ変わった人が多くいる。そういった人材にフォーカスし、発掘する取組があっても良い。特に長野県は弱いと感じる。ゲーム会社を持っているが、その人材の90%以上は県外出身で、長野県出身者は突飛な発想が出てきにくい。宮城県はそういうことがうまい。村井知事は自身がそういう方面への造詣が深いと聞く。

(濱田部会長)

大学も昔はそういう人材が多く、イノベーションを起こしていた。今はコンプライアンスなど様々な制約で難しくなり減っている。

そういう人材を認知して存在を認めていくことも重要。

(小松専門委員)

神戸大学の先生が過去のベンチャーのことを調べたところ、京都での創業が多く、外に出ていかない。その要因は、親方衆が、若い人を支援して、そこに投資が回る循環ができています。親方衆は変

わった人が多い。長野県はそういった環境とは対照的な雰囲気であったが、少しずつ変わりつつある。私自身は最近そういう相談をたくさん受けるようになって、場づくりが重要だと思うようになった。世代や役職を超えた出会いの場づくりができればよいと思う。

(林産業労働部長)

産業支援機構は 100 人を超える規模で、伴走型支援に取り組むなどやっているが、今のような話には不十分かもしれない。具体的に活用したい内容をプランに記載しておくことで予算に繋がるのですのでご意見いただきたい。

(小松専門委員)

関連計画のところは例えば医療機器を進めたい企業が集まるなど、仲間づくりに利用している。

(濱田部会長)

KPI の決め方は今日決める必要があるか。具体的な項目はともかく案 1~4 のどれが良いのか。

(合津産業政策課長)

事務局としては、各重点施策について案 4 を基準として、大きなアウトカム指標をプラン全体の KPI として建てることとしたい。

→了